



慶應義塾大学ビジネス・スクール

株式会社いまじん (C) —「Imagine1000」プロジェクト —

5

「私にいまじんの社長をやらせてください。」

2006年4月、株式会社いまじんの入社式及び全社員による2006年度の決意表明で、前年、代表取締役社長に就任した林昭宏は声高く宣言した。すでに社長に就任して1年近い。

同社を大きく躍進させた前社長榎本計介から社長職を受け継ぐと同時に、林は「Imagine1000」プロジェクトをどうしても成功させなければならなかった。いまじんの社長をやるということ、会社あげてのプロジェクトを自分の中に落しこむということ、改めて「社長をやる」という決意表明は、林の覚悟の現れだった。一人ずつ、全社員の前に出て行う決意表明は会長・社長以下、例外なく全員が行う。そして誰が素晴らしい決意表明を行ったと思うか、社員は無記名で投票を行う。決意表明の後は健康センターでビールを酌み交わし、歓談の場が設けられるならわしだった。歓談中、先ほどの決意表明の最優秀者が発表された。林であった。林は大拍手で迎えられ、恥ずかしそうに壇上に上がり、賞品を受け取った。

「社長が社長やるって言って、どうして表彰されるんだ！ しっかりしろい、林!!」

今は常任監査役となった近藤秀二が壇上に向かい、檄を飛ばした。林は苦笑いして檄を受け止めた。

「Imagine1000プロジェクト、絶対成功させるぞ！」

壇上の林が声を張り、会場は再び拍手に包まれた。

20

15

15

25

本ケースは、標記企業の全面的な協力を得て、慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程M28期生の三浦正義と坂爪裕助教授が共同で作成した。本ケースはクラス討議の資料として用いるためのもので、経営管理の良否あるいは関係者の判断の適否を示唆するものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

Copyright©三浦正義・坂爪裕（2007年作成、2008年4月改訂）

30